各水試発トピックス

ヤツシロガイの卵のう発見！

2008年10月に戸井漁協の漁業者宮崎晃一さんが、「何の卵だろう？」と函館水産試験場に見慣れない物を持って来ました（写真１）。コンブのように薄く平たいもので、全体にピンク色の粒々があり、触るとかなり弾力がありました。拡大して見ると、多数の卵が規則正しく並んでいました（写真２）。

宮崎さんが９月19日に、函館市戸井地区小安沖の水深約20mから天然マコンブを採集したところ一緒に採集されました。長年コンブを採っていてもはじめて見たとのことでした。

いろいろ問い合わせてみたところ、網走水試の桒原栽培技術科長から、「ヤツシロガイ」（写真３）の卵のうであることが分かりました。ヤツシロガイは、北海道南部以南に分布し、水深10～200mの細砂底に分布する（奥谷 2000）、本州では普通に見られる貝です。貝は殻長10ｃｍ前後となります。肉食で、ナマコを捕食する貝として知られています。また、卵のうの形が特徴的で、一端を海底に固定し、海中でコンブのように波にゆられています。

桒原科長によると、北海道でのヤツシロガイの採集例は少ないそうで、生息数は少ないと思われます。

ヤツシロガイは、最近中華料理の高級食材として注目され各地で資源を守り育てる努力が行われているナマコの外敵であり、気になるところです。このような珍しい生き物を見かけた方は、お気軽にお近くの水産試験場または水産技術普及指導所までお問い合わせください。

（赤池章一　函館水試調査研究部）

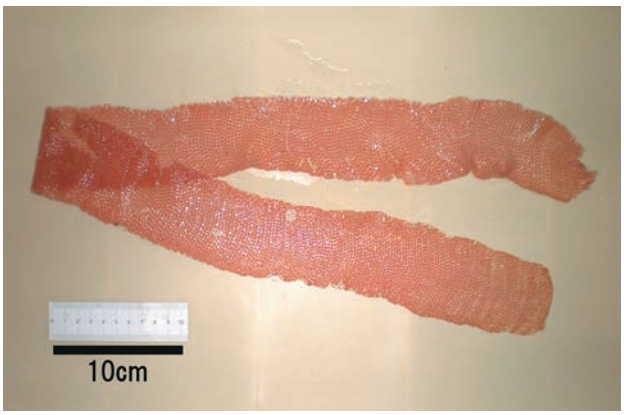

写真１　ヤツシロガイの卵のう

写真２　卵のうの一部を拡大

写真３　ヤツシロガイ *Tonna luteostoma*
（網走水試桒原康裕科長提供）

各水試発トピックス

噴火湾はスケトウダラ稚魚の一大保育園

スケトウダラは北海道で２番目に漁獲量が多く、卵はタラコに、魚体はすり身にとおいしい魚です。渡島、胆振、日高３支庁にまたがる道南太平洋海域は日本で最大のスケトウダラ資源である太平洋系群の産卵場となっていて、毎年秋から冬にかけて産卵のために集まった親魚を対象とする漁業が営まれています。この海域で生まれた卵は海流に乗って噴火湾内に運ばれ、そこで孵化して夏頃まで過ごすと考えられています。栽培水試では、試験調査船金星丸に搭載されている魚の量を計ることのできる魚群探知機（計量魚探）を使って、噴火湾内にいるスケトウダラ稚魚の様子を水産庁の研究プロジェクトと連携して2005年から本格的に調べ始めました。その結果、６月には体長６cmほどに成長した稚魚が湾内に広く分布しており（図１）、多いところでは海面から海底までびっしりと埋めつくしている様子が観察されました（図２）。噴火湾はスケトウダラの一大保育園であることがよくわかります。現在、計量魚群探知機で測定した反応の強さを稚魚の尾数に換算する方法を研究中で、これができるようになると、現在発行中のスケトウダラニュースに加えて、「今年は噴火湾内に○○億尾、○○万トンの稚魚がいます」といった「スケトウダラ稚魚ニュース（仮の名前ですが）」が出せるようになります。スケトウダラ資源の多い少ないは、卵から仔稚魚期までにある程度決まるのではないかと考えられているので、毎年の量を比較すれば、生まれた年に資源の変動を予測できるようになるのではと期待されています。

（志田　修　栽培水試調査研究部）

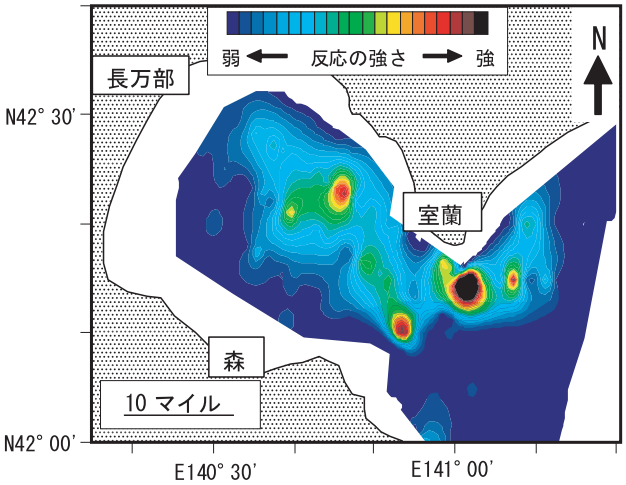

図１．噴火湾に分布するスケトウダラ稚魚（2008年６月）
反応が強いほど稚魚が多いことを示しています。

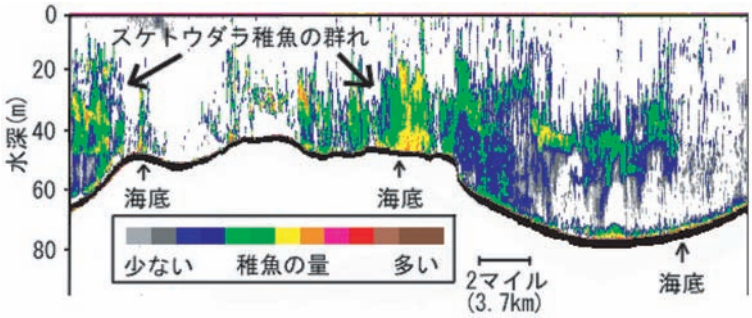

図２．計量魚群探知機で見た噴火湾（2008年６月）
海面近くから海底までスケトウダラの稚魚が分布しています。